

平成 26 年 7 月 15 日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（依頼者） 吉村學デザイン事務所
〒565-0821
住所 大阪府吹田市山田東3-9-26
事業者名 吉村學デザイン事務所
担当者所属 開発
担当者名 吉村 学
電話番号 06-6875-3011
電子メールアドレス manabu@yoshimura-mail.com

専門職によるアドバイス支援事業 依頼書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う、介護ロボット等の「専門職によるアドバイス支援事業」について、下記の書類を提出して依頼します。

記

1. アドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）
2. 会社概要（任意様式）
3. これまでの福祉用具・介護ロボットの開発実績がわかる書類（任意様式）
※実績がない場合は、提出不要

（書類の取り扱い等について）

- ご提出いただく「アドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「アドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、適切なアドバイスが行える介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知置きください。

会社概要（任意様式）

2006年 会社を退職後 吉村學デザイン事務所事務所を設立
個人事務所として、IT関連の開発受託業務を開始する

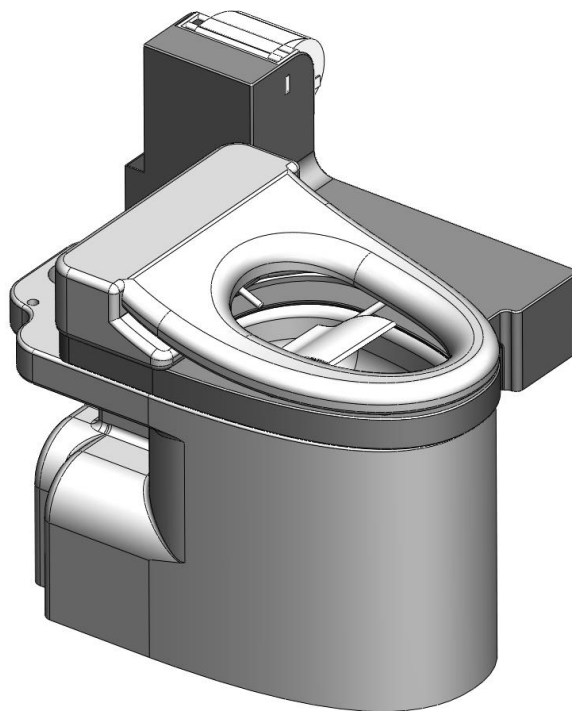
2007年 某社の委託を受けロボット便座を開発を始める
2007年 国際福祉機器展に展示

2010年 某社の委託を受けロボット便座2を開発
2010年 国際福祉機器展に展示

2011年 某社の依頼を受けロボット便座3を開発
「大阪ものづくり優良企業賞 2011」優良企業賞を受賞しました。

2012年 某社向けの開発が終わり商品化に移行したことで開発は終わる

2013年 吉村學デザイン事務所の新発明によるロボット便座を発表
前製作分は紙つかみ機構の出入りに、昇降機による立ち上げによる空間が必要とされ、便座と便器の空間が11センチ以上必要とされることで、装置が大型化することになったが、このモデルは紙つかみ機構を新たに発明することで3センチの空間から、制御可能となり、昇降機は不要となったため、通常のスペースで動作可能とした。



アドバイス支援事業 依頼概要書

1. 希望する事業の枠組み (いずれか希望する方に○印を付けるか、事務局までご相談ください。)

1. 介護職員等との意見交換	
2. 専門職によるアドバイス支援	○

2. 依頼者の概要

事業者名	吉村学デザイン事務所	
担当者名	吉村 学	
担当者連絡先	住所	大阪府吹田市山田東3-9-26
	電話	06-6875-3011
	電子メールアドレス	manabu@yoshimura-mail.com
主たる業務	トイレおけるロボット制御による介護機器の開発	
主要な製品	ロボット便座	
希望する施設等の種類・職種等	要介護2までの自歩行が可能な要介護者で、足・腰・手に不自由があるため、トイレでの動作において、介助を必要とする要介護者に、自立を支援する環境を提供する(ロボット便座)の動作検証	
アドバイス(意見交換)を希望する地域	大阪府内	
その他	個室でトイレがあるが、排便時には、臀部のふき取り介護を必要とするため、介助者の立ち合いを行っている施設に対し、自立を安全に行うための改良点の確認	

3. 機器開発コンセプトあるいは試作機の概要 (可能な範囲でご記入ください)

機器の名称(仮称)	ロボット便座	
試作機の有無及び機器のコンセプト (試作機あれば写真を添付)	試作機の有無	1. 有り ・ 2. 無し
	<p>機器の目的及び特徴</p> <p>要介護2までの初期の要介護者は、足腰が弱ってくると、中腰の体勢が不自由になり、トイレでの臀部ふき取り動作ができなくなるため介助が必要となる。手摺を使ってトイレに行き、ズボンを下ろして便座に座り、自分で用を終われるが、腰を浮かしながらの臀部のふき取り動作ができないため、介助を必要とする要介護者にとっては、このロボット便座はトイレでの臀部洗浄から、臀部水滴のふき取り動作を機械で完結できることで、介助を必要とせずに用が終われば、ズボンを上げて自力で部屋に戻ることができます。特に家庭介護においてはトイレ介護のために家族が外出できないなどの介護負担を軽減できながら、トイレに行きたいときにトイレに行けることから、自己実現の環境を提供でき「QOL」を高めます。</p>	
想定する使用者及び使用方法、使用環境	<p>使用者、使用方法、使用環境</p> <p>要介護2までの要介護者の、家庭介護または施設の個室生活者で、中腰になれないため、トイレでの介護を必要とする要介護者において、認知症などを発症していない要介護者を対象とする。既設のトイレ設備の便座の下にねじ2本で組み込むことで固定できます。排便後温水洗浄したのちに、ふき取り釦を押すと、アナウンスとともに臀部のふき取り動作を行います。紙を掴むヘッドは、毎回次亜塩素酸ナトリウムで消毒洗浄後送風乾燥され、感染を防止します。設置場所については、装置を小型化したことで、通常のトイレ空間を改造することなく設置できます。</p>	

<p>現在の開発状況と課題</p>	<p>実証試験を可能としていますが、以下の検証を必要とします</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 男・女のふき取り位置の最適化 2) 個人の感覚によるふき取り圧（動作）の最適化 3) 予想しない使い方に対する安全策 4) 不特定な人が煩雑に使うことは想定していないが、そのような環境があるか 5) 衛生面に対する不快感があるか
<p>特にアドバイス（意見交換）を希望している事項</p>	<p>要介護2までの要介護者を対象としており、現状までの調査では、トイレでのふき取り動作を本人が行えれば、相当期間自己実現ができることとなります。それによりQOLの低下も防ぐことができると考えます。そのことで介護者の負担を大きく軽減でき、夜間の対応と、家族の外出時における、自己実現の環境提供できると考えますが、想定外の使用における安全面はどのようなことが想定されるかを検証を必要とします。</p>
<p>その他</p>	<p>軽度の要介護者が自宅介護に移行する中で、排便介護は24時間対応となるため、家族介護の大きな負担となっています。この装置は自立支援の環境機器としては、大きな効果を提供できますが、安全面に対する検証が不足しており、広くアドバイスを求めるものです。</p>

（注）必要に応じて記載欄を増やして記入してください。

添付資料 試作機写真

